

CHIHOMEN NEWS



「みんなで考えるわかやまのMIRAI」 を開催しました！



イベントの内容

令和元年7月7日、和歌山財務事務所では和歌山地域の産官学金の若者が集い、和歌山の課題や将来についてSDGsを通じて真剣に考えるイベントを株式会社紀陽銀行及びきのくに信用金庫と共同開催しました。

イベント当日は、当所のちほめん6名を含めて**参加者64名**（民間事業関係者:16名、金融機関関係者:21名、国・自治体関係者:22名、大学生:5名）と多数の若い方々に参加して頂き、SDGsに造詣が深い小菅隆太氏、森伊知郎氏、中西将之氏を招いて、①講演「SDGsと地方創生、地域連携の重要性について」、②カードゲーム「SDGs de 地方創生」、③名刺交換を含む意見交換会の順番で進行されました。



メインファシリテーター：小菅 隆太氏

（特定非営利活動法人 イssueプラスデザイン 副代表、経済産業省 製造産業局 空飛ぶクルマプロジェクト コミュニティマネージャー）

「地域を変えるデザイン（2011）」執筆協力を機にissue+design チームに参画。全国様々な自治体とコミュニティデザインの領域で取り組みをともにしている。



サブファシリテーター：森 伊知郎氏

（Future Creation Lab. オブリガード 代表）

環境省近畿パートナーシップオフィスアドバイザー委員。個人のライフスタイルから企業経営・地域づくりにSDGsを活用する支援を行っている。



サブファシリテーター：中西 将之氏

（株式会社ツナグラボ 代表取締役）

人材会社でのキャリアコンサルタント、食品製造加工販売会社、広告代理店企画職勤務を経て、2014年から現職。2018年より「2030SDGs」公認ファシリテーターとしても活動している。

①講演「SDGsと地方創生、地域連携の重要性について」

まず、参加者に向けて「SDGs」と「地方創生」の理念や関係性について説明がありました。

その後、令和元年6月21日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」において、SDGsを原動力とした地方創生の推進に向け、多様なステークホルダーにおける一層の浸透・主流化を図った上で地域課題の解決に向けた取り組みを推進するに当たり、ステークホルダー同士の連携による地方創生SDGsに向けた「自律的好循環」の形成を進めていくことが求められているとの話がありました。

また、和歌山市が「SDGs未来都市」に選定されたことから、当イベントに参加している「産官学金」の地域での連携が重要になるとの話がありました。



②カードゲーム「SDGs de 地方創生」

講演の内容を体験的に理解するため、カードゲーム「SDGs de 地方創生」を実施しました。このゲームは、SDGsの考え方を地域活性化に活かし、地方創生を実現する方法について参加者全員で対話し考えるためのツールです。人口減少が進む架空のまちを舞台として、16グループ各4人のプレイヤー（行政担当者または住民）に分かれて、グループ毎に目標（経済発展/貧困をなくす/教育の充実等）のプロジェクトを達成しつつ、最終的にまち全体の「人口」・「経済」・「環境」・「暮らし」の発展を目指すというカードゲームです。チーム内でプロジェクトを達成するための作戦を練り、また他のチームと交渉し、保有する「お金」・「人材」・「プロジェクト」を融通し合いながら目標の達成を目指します。

このゲームを通じて、SDGsの本質である持続可能な社会を実現するための個々の目標はそれぞれ独立して存在しているのではなく、互いに密接に関連しているということを学ぶことができました。



(1)小菅氏によるルール説明



(2)ゲーム開始前に各チームで作戦会議



(3)ゲーム開始！他チームと交渉



(4)ゲーム結果を受けての感想及び考察の発表

③名刺交換を含む意見交換会

当初、初対面同士で盛り上がるのかという懸念がありましたが、我々の想像以上にカードゲームによりもたらされた影響は大きく、序盤から大いに盛り上がり、講師の方も含めて闊達な意見交換が繰り広げられました。



今回のイベントで出た感想、意見

- ・金融機関でいると企業の方と話す機会はあるけど、行政の方と関わることは少ない。こういった集まりに参加していると様々な繋がりを作ることができると思う。【金融機関】
- ・今までSDGsについて考える機会にはなかったが、自分や周りの人が行っていること一つ一つが目標の達成や未達成に関わっているということが分かった。自分のことにとらわれずに、周りとの協力し合い、全体を把握しながら目的を持って行動することで上手くいくことがあるという発見があった。【金融機関】
- ・事業主体となる民間事業者とはこのような場でないとなかなか出会えないので、今後も積極的に参加していきたい。【自治体】
- ・今回のイベントを通じて自分の住んでいる町を活性化させていくために何をすれば良いか考えることができた。今度は実際にある和歌山県内の事例を使って、様々な立場の方と意見交換をしてみたい。【自治体】
- ・今回のような民間、金融機関、行政が意見を共有できる機会が増えれば、地域社会により良い影響を与えることができると思う。【民間事業者】
- ・産官学金のメンバーがたくさん集まったので、次は具体的に和歌山県の今後について話し合う機会があったらおもしろいと感じた。【民間事業者】
- ・普段接点のない社会人の方と話すことができて良かった。また、SDGsについても今後考えていくきっかけになった。【大学生】



最後に

今回の企画では、地方創生支援の一助とするために、地域を支える重要な構成主体（産官学金）に所属する「参加者同士の新たなネットワークの構築」を目的の一つとしておりました。

今後はこの業種間の横断的な若手のネットワークを地域の活性化に活かせるような取組みを検討していきます。

今回の企画に賛同、協力していただきました小菅様、森様、中西様、及び株式会社紀陽銀行、きのくに信用金庫の皆様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。